# 絆

KIZUNA

2026 NOVEMBER

JAグループ青森 月刊広報誌［959号］

11



笑顔ちゃん×HELLO KITTY
国消国産
KUNISHOKUSAN

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

# 林修先生と学ぶ「国消国産」講座

## 日本で食べるものは、日本で作る「国消国産」をいっしょに考えよう

なぜ今？国消国産

### 生きるために欠かせない食料は、日本で作ったほうが安心

新型コロナウイルスの感染が広がり始めたとき、マスク不足が大きな問題になりました。もしこれが食料だったら、どうなっていたでしょうか。いざという時、マスクのような工業製品は急いで作れますが、農地を耕し、自然と調和しながら、長い年月をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。

### 日本の「食」は、今さまざまなリスクに直面

今、日本の食料自給率は38％※です。つまり食料の約6割を輸入に頼っているのです。その大きな要因は、農家の減少や高齢化など、生産基盤の弱体化です。さらに、日本も含めた世界中で自然災害が多発しています。もし、日本が多くの食料を輸入している国で自然災害などが発生し、食料生産が大幅に減少したら、日本の食生活にも多大な影響を及ぼしかねませんが、食料の輸入は増加しているのです。さらに、今後も世界的な人口増加が予測される中、日本ではこれから先ずっと、食料を輸入し続けられるのかという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しているのです。

※カロリーベース 2019年 農林水産省による

**日本の「食」をとりまく5つのリスク**

- **食料自給率の低迷**
  食料の多くを輸入に頼り続けている
- **農業生産基盤の弱体化**
  農家の減少と高齢化、農地の減少が進む
- **自然災害の多発**
  世界と日本の農業が多くの災害に直撃される
- **世界的な人口増加**
  世界の人口増加で食料不足が懸念される
- **国際化の進展**
  輸入増加で食料自給率低下の可能性がある

だから今！国消国産

### 「国消国産」で、「食」の安心を次の世代に

そのようなリスクにさらされている中で、JAグループは、「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」する、「国消国産」という考え方を提起しました。私たちの毎日の「食」の安心はもちろん、子どもや孫たちの世代にまで、この日本という土地で豊かな実りが絶えることのないように、おいしい食卓を囲む笑顔が絶えることのないように、「国消国産」は、日本の「食」のこれからにとって、大きな意義をもっています。



JAグループサポーター・林修

国消国産 こくしょうこくさん

耕そう、大地と地域のみらい。

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN | JAグループ

テーマ営業出店パートナー

JAグループは、GREEN×EXPO 2027のFarm&Food Villageに出店します

©Expo 2027

巻頭言

# 事業運営・事業活動にかかる取組み方針をご紹介

農業・農村を取り巻く環境は、改正された「食料・農業・農村基本法」のもと、食料安全保障の強化が具体的な施策として定着する段階にあります。また、担い手不足や異常気象の常態化、地政学的な不透明さが続く中、持続可能な農業への転換は喫緊の課題となっています。こうした状況下、ＪＡグループでは「第30回ＪＡ全国大会決議」の実践２年目を迎え、日本の食を守る「国消国産」の取り組みをさらに深化させるとともに、めざす姿である「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」に向け、取り組んでいます。

**１）ＪＡ活動支援事業**

ＪＡグループと連携し、旅行やイベント、大会等を通じた接点（つながり）づくり・組合員との関係強化、仲間づくりに取り組みます。

**２）リテール事業**

旺盛な個人需要獲得のため商品企画センターが造成する個人向け全国混載旅行を拡大します。

**３）地域共創事業**

地域共創事業では、農業委員会や農事組合、一般企業などのＪＡから広がる市場（ＪＡ周辺市場）に加え、新たな地域需要（漁協、生協、育成会等）の獲得や、農業・農村体験、食育などを提案する教育旅行、日本航空との連携によるＪＡＬアライアンス、多種多様な企業体と連携した公募案件に取り組みます。

**４）国際交流事業（インバウンド）**

日本国内各地の魅力ある地域資源である「農」・「食」・「地域文化」に触れる体験を提案し、外国人旅行者にツアーを通じた日本の農業、地域、食の魅力を発信します。重点市場である欧米豪、ならびに農泊、農業視察、体験等を目的とする団体旅行の獲得により、増収を図ります。

**５）労働力応援事業**

本社事業としての官公庁（公募、交付金案件）をターゲットとする官公庁グループと労働力応援事業案件をターゲットとする労働力応援グループに加え、全社地域共創事業の舵取り役として、支店の地域共創事業への取り組み支援やＮツアーグループ共同事業に取り組みます。

**６）アグリンピア® 事業（農福連携事業）**

事業理念「国内農業の発展と共生社会の実現」に向けて、強固な事業基盤をつくるため、リクルート・人財確保・ポート設置・企業提案について重点的に取り組みます。

株式会社農協観光

絆 11 KIZUNA

目次

CONTENTS


巻頭言 …… 1
フラッシュ …… 2
Moving Forward …… 4
インフォメーション …… 5
あおもり通信 …… 12
実践担い手支援 …… 14
経営の窓口 …… 16
ＪＡつがるにしきたＮＥＷＳ …… 19
輝き・部会のチカラ …… 20
新風 …… 21


表紙の写真：新・農のある風景 ～其の128～ 香り立つリンゴを丁寧に選別（ＪＡつがるにしきた）

県内JAのニュースを紹介します

# フラッシュ

## ＪＡ青森



**ＪＡ秋まつり　旬をいち早く来場者へ（10／24）**

当ＪＡ本店にて、今年で17回目となる「ＪＡ秋まつり」が開催された。毎年恒例の新そばに加え、旬の野菜や果物、加工品などを販売する店舗20軒が軒を連ね、1,000人以上の来場者で賑わいを見せた。

当まつりの人気イベントとなった「大根の収穫体験」では、受付に行列ができ、あっという間に約500本の大根が収穫され、今年も大盛況であった。

## ＪＡつがるにしきた



**中生種「早生ふじ」の選果始まる（10／2）**

当ＪＡ管内で中生種リンゴの出荷が始まった。鶴田町の水元りんごセンターでは「早生ふじ」の選果作業が行われ、作業員が選別や箱詰めに追われた。

本年産は、7、8月の降雨により果実の玉伸びが良く、9月に入ってから日中と夜間の寒暖差があったことで、着色も良好に仕上がっている。

リンゴの出荷は12月から1月にかけて台湾や香港など海外にも行われ、県内外出荷は、来年6月中旬頃まで続く。

## ＪＡごしょつがる



**リンゴ中生種の規格基準を確認（10／2）**

当ＪＡりんご課は、管内13ヶ所でリンゴ中生種「ジョナゴールド」や「シナノスイート」などの規格基準説明会を開催した。説明会では、参加者がサンプル品を手に取り、着色の度合いや傷の程度など、山選果時の判断基準について説明を受けた。

同課の笠井貴宏課長は「ＪＡへ出荷してくれる生産者のために、高値で販売できるよう努めたい」と話した。

## ＪＡつがる弘前



**「ゆっくりウォーク～歩いて巡る旅～」（10／14）**

当ＪＡ総務課くらしの活動係は、青森市浅虫地区で「ＪＡつがる弘前健康寿命100歳プロジェクト『ゆっくりウォーク～歩いて巡る旅～』」を開催し、組合員や地域住民が参加した。

自然環境を活用し、個人の体力に合わせて無理なく歩く「クアオルト健康ウォーキング」を体験。参加者からは「思い切って農作業を休み、参加した。目も心も癒され、とても良かった」などの声が聞かれた。

## ＪＡ相馬村



**相馬小学校２年生がフルーツステーションを見学（９／17）**

弘前市立相馬小学校２年生の児童は、当ＪＡ本所にあるフルーツステーションを訪れ、リンゴが保管されている冷蔵庫や選果ラインなどを見学した。

当ＪＡ販売課の田村慎平さんが「リンゴを箱詰めする作業ですが、人と機械どちらが早いでしょう？」と児童らに投げかけると、自信満々に「機械に決まっている」と答える児童が多かった。田村さんが、人の手で詰めた方が早いと説明すると子どもたちは意外な答えに驚く様子を見せていた。

## ＪＡ津軽みらい



**常盤小学校でサツマイモ収穫体験（10／16）**

藤崎町立常盤小学校の１、２、５年生の児童が、同校敷地内の畑でサツマイモの収穫体験を行った。

今回収穫したサツマイモは、児童らが６月に植え付けたもの。当ＪＡの営農課職員と常盤グリーンセンター営農指導員が講師を務め、収穫の方法を説明した。土の中からサツマイモが顔を出すと、見つけた喜びから歓声が上がった。

児童らは「こんなに大きくなっていて驚いた」と感想を話し、農業や植物の成長への関心を深めた。

## ＪＡゆうき青森



**米初検査　全量１等米（９／25）**

七戸町にある当ＪＡ天間林営農センターで、2026年産米の初検査を行った。「まっしぐら」300㌔を検査し、全量１等米に格付けした。

当ＪＡの農産物検査員が、被害粒の有無などを確認。形質は１等標準品で、整粒83%、水分13.8%。高温やカメムシの影響は少なく、品質は良好だった。

検査を終え、天間一博組合長は「再生産が可能な価格を目指して国へ訴えていく。適期収穫をしてＪＡへの出荷をお願いしたい」と呼びかけた。

## ＪＡ十和田おいらせ



**十和田市立藤坂小学校ネギ収穫作業見学（９／24）**

十和田市立藤坂小学校の３年生の児童は、収穫最盛期を迎えた附田和寿さんのネギ圃場で収穫作業を見学した。

児童らはネギの栽培について学んだ後、農薬散布の様子や収穫機を使った掘り取り作業を見学。次々とネギを掘り取っていく収穫機のスピードに驚きの声を上げた。

児童の「ネギに農薬を使うのは、どうしてですか？」との質問に、附田さんは「おいしいネギを作るためには土づくりがとても大切。また、虫や病気からネギを守るため、農薬の適正管理が品質の良いネギづくりのポイント」だと話した。

## ＪＡおいらせ



**ウェナッチバレー姉妹都市友好親善使節団**
**ゴボウ日本一の産地で収穫体験（10／２）**

三沢市と姉妹都市を結ぶ米国ウェナッチ市と東ウェナッチ市のウェナッチバレー姉妹都市友好親善使節団は、当ＪＡを訪れ、三沢市谷地頭にあるゴボウ畑で収穫体験をした。

当ＪＡ指導課の職員がゴボウを収穫する様子を見せた後、同団員らは次々と、力いっぱいゴボウを抜いて収穫を楽しんだ。ゴボウがなかなか抜けず茎の部分で折れるなど苦戦するも、ゴボウを抜くごとに歓声があがり、高々に掲げ喜ぶ姿も見られた。

## ＪＡ八戸



**丸イモ作柄調査（10 ／ 16）**

当ＪＡ振興野菜専門部は、県三八農林水産事務所職員、当ＪＡ指導員とともに五戸町の当ＪＡ五戸営農経済センター（東部）で丸イモ作柄調査を行った。重量については平年並みであったが、品質や形状が昨年よりも良く、Ａ品率が高い結果となった。

丸イモの有利販売につなげる目的で、管内９ヶ所の圃場から各５個ずつ、ＪＡ指導員が無作為にサンプルを採取して重量・等階級を中心に計測を行い、2026年度の作柄を調査した。

Moving Forward
各連合会の取組みを紹介します

# JA共済連青森 取組紹介

## 1｜新たな接点づくり




青森に縁のあるＪＡ共済アンバサダーをＪＡまつりやイベントに派遣。アンバサダーの発信力を活かし、地域特産物のＰＲや来場者との交流により、ＪＡをより身近に感じてもらうきっかけをつくりました。

## 2｜継続的な関係づくりへ




イベント会場では、組合員・利用者との継続的な情報の受発信ができる連絡先情報の収集につとめました。イベント終了後も地域の特性に応じたお役立ち情報などの発信に取組みます。

## 3｜体験から、日頃の「備え」へ





「青森みんなの防災フェア2026」に協賛し、「ザブトン教授の防災教室」を実施。イス型の地震体験装置「地震ザブトン」で実際の地震の揺れを体感し、「地震研究ノート」やクイズパネルなどを通じて、家具の固定をはじめ家庭でできる備えについて考えるきっかけをつくりました。

**接点創出**
ＪＡ共済アンバサダー派遣
→
**情報収集**
アンケート収集
→
**ニーズ想起**
暮らしへの関心・防災への備え
→
**組合員・利用者との関係性強化・仲間づくり**

**地域貢献活動から「継続的な関係づくり」「事業への好循環」へ**

農業のために 地域のために 明日のために
JA共済の地域貢献活動

JA共済

日本農業新聞 電子版

# 営農にますます役立つアプリに

「日本農業新聞ニュースアプリ」がリニューアル! 新機能を追加し、操作性も向上しました。
好みに合わせてカスタマイズでき、情報収集がより便利になります。

新機能1



## 病害虫診断



スマートフォンで撮った写真から、農作物の病気や害虫をAIで判定することができます。
対応品目は、トマト、ブドウ、イチゴ、キュウリ、タマネギ、ジャガイモ、ナス、桃、ピーマン、菊、大豆、カボチャの12品目です。

新機能2



## 気象情報



1週間の天気予報に加え、1キロ四方単位の詳細な気温、降水量、日照時間のデータ(過去7日間+今後7日間)を見ることができます。また、栽培品目の積算温度も計算できます。

新機能3



## Myカテゴリ



関心のある用語や、栽培品目、市町村名、JA名などを登録すると自分だけのカテゴリを作成できます。
カテゴリには自動で記事が分類され、読みたい記事を手軽に探せます。

※本サービスは人工知能(AI)技術および外部データベース等を活用した参考情報の提供であり、診断の正確性・有効性について当社は一切の責任を負いかねます。ご自身の責任において判断し、ご利用ください。

**アプリダウンロードはこちら**

右記QRコードを読み込み、日本農業新聞公式ウェブサイトからアプリダウンロードにお進みいただけます。

**アプリの利用について**

- アプリ内で全ての記事・機能を利用するには、電子版有料会員登録(月額2,403円)が必要です。
- 電子版有料会員の方は、アプリを利用する前にブラウザ版でログインして会員認証を受けてください。会員認証がないと、アプリ内の一部の機能が利用できません。

※過去一度でもブラウザ版でログインしたことがある方は認証済みです。

※アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。 ※App StoreはApple Inc.のサービスマークです。 ※Google PlayはGoogle LLCの登録商標です。

紹介動画はこちら

お問い合わせ
日本農業新聞 電子版事務局
dkanri@agrinews.co.jp



暮らしに役立つファミリー誌

# 家の光

IE no HIKARI




お申し込みはお近くのJAへ



定価 900円(税込)

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町 11
TEL 03-3266-9039 http://www.ienohikari.net/


まっしぐら
ひと粒ひと粒がしっかりとし
控えめな甘さ
青天の霹靂
上品な甘みと
さっぱりした食感
はれわたり
はじけるような粒と
なめらかな食感
青森には三種類のおいしさがあります。
青森米本部
©やなせたかし／やなせスタジオ
WEBサイト
青森米本部
Instagram
clean_rice_lady_aomori


お電話不要で24時間
いつでもどこでもWEB予約が可能です!
農協観光の国内宿泊予約サイト
イイ びより
e-たび日和
検索・ご予約はこちら
https://ntour.jp/e-tabibiyori/
「e-たび日和」のおすすめポイント
農協観光が自信を持っておすすめする、全国の厳選したお宿からお選びいただけます。
お客様の旅に関する"こだわり"を細かくご指定いただくことで、よりご希望に近い宿泊施設のご紹介が可能です。
JAカードのお支払の場合、2%ポイント還元!
1 PCやスマホで検索・予約
2 クレジットカードでお支払
3 出張や旅行へGO!
NtourのSNSもチェック!
Instagram
Twitter
株式会社農協観光

# 作品紹介

## 令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門3部）
「曇りの下の澄んだ田んぼ」
青森県立三本木高等学校附属中学校
2年　澤頭華香（さわがしらはなか）



■優秀賞（図画部門3部）
「みんな大好き手巻き寿司」
青森市立浪打中学校
1年　三上泰右（みかみよしあき）



発行所／JAグループ青森　発行人／野呂　文人
JA青森中央会／JAバンク青森
JA全農あおもり／JA共済連青森
〒030-0847　青森市東大野二丁目1番地15
☎017-729-8755（JA青森中央会総務企画部総務課）

印刷所／長尾印刷株式会社
令和8年11月10日発行
定価／200円
（会員の購読料は賦課金に含まれています）

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用